

「第1回防衛力の構造改革推進委員会」及び「第1回人的基盤に関する改革委員会」  
議事要旨

1 日時

平成22年12月27日（月） 1450～1515

2 場所

防衛省 A棟11階 第1省議室

3 出席者

安住防衛副大臣 松本防衛大臣政務官 広田防衛大臣政務官 西元防衛大臣補佐官  
及川防衛大臣補佐官 事務次官 大臣官房長 防衛政策局長 運用企画局長 人事  
教育局長 経理装備局長 地方協力局次長（地方協力局長代理） 統合幕僚長 陸  
上幕僚長 海上幕僚長 航空幕僚長

4 安住防衛副大臣冒頭発言の概要

本日立ち上げた『防衛力の実効性向上のための構造改革推進委員会』及び『人的基盤に関する改革委員会』は、既にある「総合取得改革の推進」と併せて自衛隊創設以来、最大の改革になる。

「統合による機能強化・部隊等の在り方検討」については、“動的防衛力”の考え方をしっかりと踏まえて縦割りの弊害を排除し、統合運用を具体のものにするための戦力設計と部隊配置等の体制作りを実現していただきたい。

「横断的な資源配分の一元化・最適化の検討」については、我が国の厳しい財政事情を勘案し、コスト意識をしっかりと持って、研究開発や装備の調査等を行う体制を作り、国民の血税を有効に使うためにも、防衛省で業務に携わる全ての者が情報を共有する組織への変革を成し遂げ、“見える化”を推し進めて、自衛隊の足らざる能力を補い、戦力の向上に努めていただきたい。

「人的基盤に関する制度改革の推進」については、“精強性を確保する”というこの一点を最重視し、単に人事を管理するということのみならず、新しい時代の後方任用制度等を確立して欲しい。

「防衛産業・技術基盤戦略等」の策定については、時代にあった防衛装備品の調達の内実について検討を深化させるとともに、空自で起きたような談合事案を、

二度と再発をさせないための改善を図っていかねばならない。

## 5 議事概要

### ア 防衛計画課長から資料に沿って説明

### イ 主な意見概要等

今回の新大綱では、一体的運用がキーワードになると思う。効率的な組織・編成、業務のあり方を検討していきたい。

防衛省の全ての部課にまたがる課題が網羅されていると思うのでお互いに情報を共有しながら総合的な検討ができるように行っていただきたい。

各施策は、横串の部分でお互いに関連するところがあると思うので、次官等のレベルで事務的に整理・調整しながらやっていくことも必要。

いろいろな言葉がでてきているが、標語で終わることのないようにしたいと思っている。

## 6 安住防衛副大臣発言の概要

今後、防衛費が大幅に増えるわけではなく、他方で周辺諸国の緊張感が緩和されるわけではない。その中で日米共同の運用の中で防衛省ができることは何か、そして限られた資源の中でより有効な戦力設計をし、どうやって防衛力を整備していくか、ということを考えるのが防衛省の仕事。防衛装備品の問題についても、コスト意識を持って時代にあったやり方を工夫することが必要。

改革を進めるにあたっては、つらい部分や、今までのやり方を変える必要があるかもしれないが、そこを乗り越えて新しいものを生み出し、陸海空そして内局の連携強化を図り、自衛隊は一つである、ということをもみんなで共有していくことが大事。

6月までを区切りとして短期決戦で改革案を出して、如何なることがあってもこれを実現していく。次の代に引き継いでいってもこの路線は変わらないというぐらいのいいものを出して、みんなでそれを責任持ってやっていくことにしたい。